

## = 2020年 HG競技委員会議事録 =

日時：2020年11月22日（日）17:00-22:00

場所：NASAショップ2階

参加者：牟田園（委員長、議事録）、板垣、鈴木由路（司会進行）、田中、鈴木あきこ、大沢（理事）

=== 【前回会議の持ち帰り事項】 ===

(牟田園)

- ・委員長会議で競技委員会専用携帯電話の予算を申請する  
委員長会議で提案して承認された
- ・委員長会議で体験会の承認は競技委員会以外（スクール事業、振興、安全性）に移管できないか提議する  
次回の委員長会議で再提議する
- ・委員長会議で現状のPCの減価償却（使用期間）を伝え予算申請する  
承認され新PCを導入できた
- ・ライブラッカー導入に伴うルール改訂の文言を決め、共有する  
ライブラッカーの仕様確認に時間がかかり未対応、継続審議する

(田中)

(鈴木あき)

- ・緊急連絡カードの運用を継続する  
スポーツクラスでも緊急連絡カードを運用する

(鈴木由路)

- ・2021年世界選手権の代表選手選抜のとりまとめを行う(2020年7月まで)  
詳細は後述
- ・HPに掲載する競技委員会の活動内容のドラフト作成  
詳細は後述

### 【報告事項】

(牟田園)

- ・2020年Civl総会の報告  
今年度から牟田園がCivlのAlternative（サブ）になったので、Civl関連の情報共有が円滑になる見込み
- ・日本選手権の今後の開催予定  
2021 和歌山  
2022 西富士  
2023 足尾  
2024 板敷  
※池田山はハングシリーズの開催自体も不透明な状況なので、日本選手権の候補からは今時点では除外する

(田中)

- ・大会申請管理の運用状況  
リマインド機能の運用方法を再検討する

(鈴木あき)

(鈴木由路)

- ・2021世界選手権の代表とりまとめの状況  
以下のメンバーから参加意思表明アリ  
田中元、鈴木由、砂間、大門、板垣、名草（ヒート制）

(板垣)

- ・2024ClassV世界選手権の進捗状況  
石岡市長に開催の意向を伝えた  
コロナの影響で停滞気味ではあるが開催の方向で準備中  
開催に向けて準備中であることを次回のCivl総会で発信する

(大沢理事)

- ・日本選手権補助金の値下げについて  
2020年の予算が削減された  
HG (クラス1) : 70万円→63万円  
HG (クラス5) : 20万円→18万円  
今後さらなる予算削減が見込まれる
- ・JAAの航空スポーツ室長で人事異動アリ  
2021年の日本選手権 (和歌山) の表彰式に室長が来てくれるように大沢さんが事務局に伝える

=== 【議題】 ===

=====2020年5月の会議の振り返り=====

- ・ハングシリーズ費の徴収ルールの変更  
定額制にし、公認申請時に大会主催者が振り込む  
クラス1は2万、クラス5は5000円、2021年からルールを変更する
- ・フライトコンテストに宣言地ゴールを追加する  
次年度の競技委員会で継続検討する
- ・ルールブックの変更の際に理事会に承認をもらうようにするべきでは  
変更点(赤字)の記載の新ルールブック、変更点サマリーを12月までに理事会 (事務局) に提出する

=====新規の議題=====

- ・公式立会人の仕組みづくり  
Civlのルールを確認する (牟田園)  
海外の仕組みを確認する (板垣)  
競技委員会で公式立会人のルールの原案を作って理事会を通して制度委員会に持ち込む (田中)
- ・大会受付時にシリーズ登録情報をアップデートする  
今年度は対応が不十分  
やり方を見直す
- ・ハングシリーズのポイントの有効人数を見直す  
40人に削減する方向で次年度に改めて検討する
- ・ハングシリーズの開催最低日数を見直す  
ハングシリーズの大会数が減っているので条件を緩和したい  
最低日数を撤廃する  
週末開催となってもCat2は必須要件のままとする  
週末大会の開催を促進する (田中)
- ・ハングシリーズで参加条件がパイロット証になっている場合の扱い  
参加者増につながる取り組みなので基本的な考えは賛同  
パイロット証でも保険の対象かどうか事務局に確認する (板垣)  
パイロット証でXCタスクを実施することに規則上の問題がないかスクール事業委員会 (北野さん) に確認する (板垣)
- ・フライトコンテストにリーグ制を導入する  
やる方向で進める  
システマ的に対応可能かどうか検討する (牟田園)

- ・学生フライトコンテスト  
競技委員会のページに学連ページへのリンクを貼る（牟田園）
- ・高度判定の方法をGPSからQNHに変更するか  
GPSの高度情報は精度が高くないのでQNHに変更する  
ライブトラッカーでQNHの設定が可能かどうか開発者に確認する（牟田園）  
運用の仕方はCat1のやり方に従う  
フライトコンテストの高度判定はエアリアルールに準拠する
- ・飛行禁止空域でNGになった場合のGPSの再提出を認めるかどうか  
再提出を認めるようにルール変更する
- ・日本選手権の成立条件の見直し（クラス1、クラス5ともに）  
クラス1：1.2に引き下げる  
クラス5：ハングシリーズの開催条件を満たすこと、を成立条件に追加する
- ・フライトコンテストの締め切り日の見直し  
2月の和歌山で表彰するために年またぎの申請は1月1週目までにする
- ・フライトコンテストのデュレーション部門  
デュレーションはクラス1 & 5を統合するルールにしたい  
予算削減の流れもあり、統合するようにルールを変更する
- ・選手ではないスタッフが集計を行うための環境づくり  
スコアリング講習会を開催して新しいスコアラーを育成する取り組みを実施した  
マニュアル動画などを作成して啓蒙を継続する  
将来的にはスコアラーがリモート対応できるようにルールを見直していく
- ・大会受付でのウェイポイントおよびエアスペースのアップロード  
GPSへのアップロードは基本的に選手が行うように2021年からルールを改定する
- ・GPSの接続ケーブル  
競技委員会で用意するケーブルを限定して、それ以外のケーブルを必要とする選手は自前でケーブルを持ってきてもらうようにする  
→ルール改定する
- ・ソアラブルではない競技の扱いについて  
砂間選手よりの提言  
WPRSポイントおよび大会成立への寄与を鑑みて却下
- ・2021年のHS仮予定  
西富士 1/9-1/11  
和歌山 2/20-2/23  
板敷 3/18-3/21  
池田 未定  
夏足尾 8/7-8/11  
秋足尾 9/23-9/26  
※夏足尾は池田が開催されない場合に限る
- ・競技委員会の説明ページを追加する  
鈴木由が作成したドラフトをもとに検討する  
内容を精査してHPに掲載する（牟田園、鈴木あ）

- ・コロナ特別対応（ハングシリーズ開催条件、JAAチェックシート）の内容と有効期限について  
ルールを決めた時点から状況は変化しており、今後も流動的に変化していくと思われる  
明確な文言によって基準を線引きすると、状況に応じた柔軟な対応ができない  
→大会の開催可否は競技委員会に一任する  
    エントリーした選手、大会主催者、もしくは競技委員が競技委員会に対して開催可否検討の動議を提出できる  
    競技委員会では多数決により決をとる  
文言を検討する（鈴木あ）  
方針変更を事務局に連絡する（牟田園）

- ・2021世界選手権が中止になった場合の選手選考の方針について  
仮に2021年が中止になった場合は代表権は白紙とする  
2023年の代表選手は、承認済みの規則に則り、2020年と2021年のポイントに基づいて選考する  
世界戦の開催スケジュールが変更されるなどのイレギュラーな場合は都度検討とする

- ・大会資料のおき場所をGoogleドライブに変更する  
→承認

#### 【持ち帰り事項】

（継続議題）

- ・フライトコンテストに宣言地ゴールを追加する
- ・ハングシリーズのポイントの有効人数の基準値を変更する（40人）
- ・フライトコンテストへのリーグ制導入
- ・選手ではないスタッフが集計を行うための環境づくり

（大沢）

- ・航空スポーツ室長に対して、2021年の日本選手権（和歌山）の表彰式への参加を事務局経由で依頼する

（牟田園）

- ・体験会の承認は競技委員会以外（スクール事業、振興、安全性）に移管できないか委員長会議で提議する
- ・ライブトラッカー導入に伴うルール改訂の文言を決め、共有する
- ・ハングシリーズ費の徴収ルールの変更をJHF事務局および大会主催者に広報する  
    HPを更新する
- ・ルール変更の内容を事務局経由で12月中に理事会に提出する
- ・公式立会人についてCivlのルールを確認する
- ・フライトコンテストへのリーグ制導入がシステム的に対応可能かどうか検討する
- ・競技委員会のページに学連フライトコンテストページへのリンクを貼る
- ・ライブトラッカーでQNHの設定が可能かどうか開発者に確認する
- ・競技委員会の説明ページをHPに掲載する
- ・コロナ特別対応の方針変更を事務局に連絡する
- ・大会資料の置き場所をGoogleドライブに変更する

（板垣）

- ・公式立会人について海外事情を確認する
- ・パイロット証でも大会保険がカバーされるかどうか事務局に確認する
- ・パイロット証でXCタスクを実施することに規則上の問題がないかスクール事業委員会（北野さん）に確認する

（田中）

- ・大会申請管理の運用方法（リマインド）を見直す
- ・公式立会人のルールの原案を作って理事会を通して制度委員会に持ち込む
- ・週末大会の開催を促進する

（鈴木由）

- ・大会受付時のシリーズ登録情報アップデートのやり方を見直す

(鈴木あ)

- ・スポーツクラスでも緊急連絡カードを運用する
- ・競技委員会の説明ページの文言を精査する
- ・コロナ特別対応の文言を見直す
- ・ルール改定

ハングシリーズの開催最低日数を撤廃する

QNHによる大会運営

飛行禁止空域でNGになった場合のGPSの再提出を認める

日本選手権の成立条件の見直し（クラス1、クラス5ともに）

クラス1：1.2に引き下げる

クラス5：ハングシリーズの開催条件を満たすこと、を成立条件に追加する

フライトコンテストで年またぎの申請は1月1週目までにする

GPSへのアップロードは基本的に選手が行う

競技委員会で用意するケーブルをmini USB TypeB、micro USB TypeB、USB TypeCに限定して、それ以外のケーブルを必要とする選手は自前でケーブルを持ってきてもらうようにする